

校長室より

第105号

「天空高き」



平成30年2月16日

2030年の社会を想像し創造する

12年後の2030年には、皆さんは24歳から30歳前後になっているのでしょうか。

AI（人工知能）やロボットが私たちの生活の中に入り込み、随分便利になっていることでしょう。

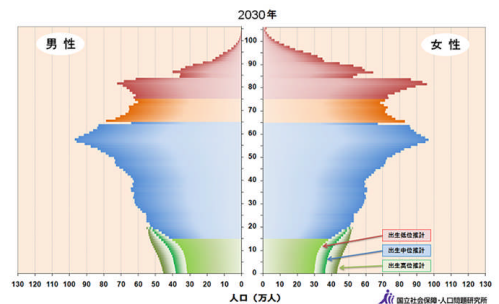
私たちの周りの環境が大きく変わってくれば、当然私たちの考え方や価値観も違ってきます。

しかし、いくら科学・技術が発達してもそれを使うのは私たち、人間です。あくまでも人間が主語になります。AIで短時間に答えを出すことはできますが、問題を作り出すことはできません。だから、これからの社会は、「自ら問いを立て、仲間と協働して課題を発見し、問題を解決していく力」、21世紀型の力が求められるのだと思います。私たちはこの力を、日々の授業で、学級活動で、また学校行事や部活動を通して、そして、中・六合同発表会などの場を通して育てていきたいと考えています。

しかしそれだけでは不十分です。皆さんには、いろいろな生活の中から「生きる力」を学び取ることが大切です。学校生活から学び、さらに、家庭生活から学び、そして社会に出て生活する中で、「生きる力」を学ぶことが大事です。

ある年輩の同窓生が、「社会で経験を積むということは、どれだけ多くの失敗をしてきたかじゃけー」と言われた言葉が脳裏から離れません。失敗経験が、成功の道を教えてくれる、ということでしょうか。失敗を知らずして成功することはまず不可能です。試行錯誤とよく言いますが、失敗の価値は極めて大きいです。そして、その中から発見した小さなことや気づいたことなどが、創造的思考の原点になります。さらに、これがときに、イノベーションと呼ばれる大きな気づき・発見につながる可能性があります。

人口ピラミッド(国立社会保障・人口問題研究所の推計による。)



資料:1920~2010年国勢調査・推計人口、2011年以降「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

正解を探すのが人生ではない。今できることをやるのが人生。

イノベーションとは、「私たちがまだ気づいていない、発見していない問題を解くこと」だと思います。言葉を換えれば、「未来の問題を見つけ解くことです」。

私たちが「今欲しいもの」ではなく、「これから欲しくなるもの」を、社会の変化の流れを拠り所にして探し出すことだと思います。

皆さんには、未来を想像し、創造することが求められています。

「ちはやふる」—第50回校内百人一首カルタ大会—

テーマは競技かるた。

百人一首の上の句を聞いて、相手より早く下の句の札を取るというスポーツです。

そんな競技かるたを愛してやまない女子高生・綾瀬千早を中心に、彼女と周囲の友情、恋愛、成長を描いている漫画、『ちはやふる』が人気です。

付属中では恒例の第50回カルタ大会が、1月24日に開催されました。今回は、昭和43年に付属中を卒業された、根角先輩と三木先輩が飛び入りで参加され、記念の50回大会を大いに盛り上げてくださいました。

両先輩はかつてのチャンピオンで、今回グランドチャンピオン（今年度優勝者と昨年度優勝者とが対戦し、その勝者）になった中3-2の豊田・中本組と対戦し、僅差ながら勝利されました。そして、後輩たちにと、「5色百人一首」を10セット寄贈していただきました。ありがとうございました。

百人一首は、約800年前に藤原定家によって完成したと言われています。私は当時の人たちの感性が、今の私たちにも同様にあることに気づき、その点に百人一首の素晴らしさと深い感動を覚えます。

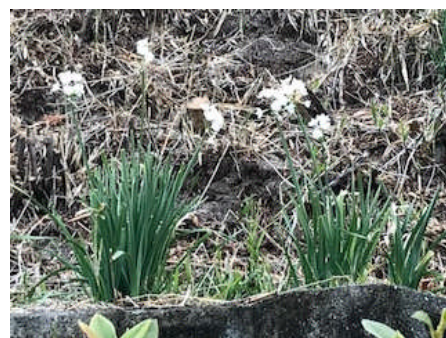


「気張る」—2月の月間目標—

「気張る」：息をつめて力む。いきごむ。（広辞苑）

2月4日は立春ですが、今年の冬は例年になく厳しい寒さが続いています。寒さで体が縮こまってしまいそうです。が、こんな時こそ、体をしっかり動かし、おなかに力を入れてください。

「病は気から」という諺があります。まず、気持ちで寒さに負けないことが大事です。



『楽しめて飛べたよ！』—2018平昌冬季オリンピック—

第23回オリンピック冬季競技大会が、韓国・平昌で2月9日～2月25日まで開催されています。

連日の強風と低温にもかかわらず、世界の強豪選手達の熱い戦いを私たちは暖かいお茶の間でテレビ観戦しています。選手や関係者には申し訳ありませんが、

12日(月)には女子ノーマルヒル個人で高梨沙羅選手が、前回のソチオリンピックで果たせなかった念願のメダルを獲得しました。皆さんも熱い声援を送っていたと思います。そのときのインタビューで、高梨選手は「4年前の自分に『楽しんで飛べたよ！』と報告した、とありました。彼女がこの4年間、日本国民の期待を一身に背負い、その重圧の中で取り組んできた成果の言葉が、『楽しめて飛べたよ！』に結集されていると思いました。とても素敵な言葉ですが、含蓄のある言葉です。

3月末には選抜大会が開催されます。本校からは男子柔道部が、団体と、個人81kg級で佐藤佳己選手が3月20日(火)～21日(水)、東京の日本武道館で、女子空手道部は3月26日(月)～28日(水)、香川県・高松総合体育館第一競技場で、女子ハンドボール部は3月24日(土)～29日(木)、兵庫県神戸市グリーンアリーナ神戸で、出場します。

彼らはそれぞれの競技種目を好きになって始めたと思います。そして、全国大会に出場するまでには彼らの日頃の地道な努力の積み重ね、指導者や関係者そして家族の支えがあったからだと思います。選手一人ひとりには、本校の建学の精神である「楽学」で、全国の舞台で思いっきり楽しんできてもらいたいと思います。



時事通信社



コーヒーブレイク—あなたはこの問題に答えられますか？—

小学校 入試問題

問題 AくんとBくんは、兄弟です。
同じお父さんとお母さんがいて、
同じ年の同じ日に生まれました。
しかし、双子ではないと言います。
なぜなのか理由を教えてください。

答えは次のページに

ホッと一息一温かい出来事一

ある新聞記事からです。

出張に向かう列車での過去の出来事を思い出した。4人掛けの座席は通路を挟んで左右どちらにも3人ずつ座っていた。停車駅で小学生らしい姉と弟が乗り込んできて、空いている席にそれぞれ分かれて座った。目の前に姉がいたので、姉と弟が向き合えればと思い、弟に席を譲って入れ替わった。

二人は楽しそうに話をしていた。暫くうとうととしていた。列車が停車すると、女の子が「ありがとうございました」と言って私の膝に何かを置き、二人は急いで降りて行った。皮をむいて切り分けたリンゴが袋に入っていた。

思いがけない行為に一瞬戸惑ったが、どうやら持っていたリンゴを弟と食べ、私にも分けて感謝の気持ちを伝えたのだと理解した。女の子の心遣いが波のように寄せてきて、胸が温かくなった。お礼の言葉だけで十分なのに、見ず知らずの者にした振る舞いに驚かされた。

心を打たれたのはなぜだろうか。素直さ、無条件の信頼、それとも純真さ。忘れかけていたものに触れた思いがしたのは確かだ。この出来事は、その後もずっと忘れないうている。

24節気

【立春】(2月4日頃)

二十四節気の最初の節気で、この日から暦の上では春となり、さまざまな決まりごとや節目の基準になっています。旧暦では立春近くに正月がめぐってきたので、立春は春の始まりであり、1年の始まりでもありました。まだまだ寒さは厳しいですが、立春を過ぎてから初めて吹く強い南風を「春一番」といいます。

【雨水】(2月19日頃)

雪から雨へと変わり、降り積もった雪も溶けだす頃という意味です。実際にはまだ雪深いところも多く、これから雪が降り出す地域もありますが、ちろちろと流れ出す雪溶け水に、春の足音を感じます。

出典「暮らし歳時記」

(答え) 同じ日に他にも生まれた兄弟、姉妹がいるから(三つ子以上だから)